

令和7年三重県議会定例会

医療保健子ども福祉病院常任委員会

説明資料

	頁
【 所管事項説明 】	
1 三重県病院事業 中期経営計画 令和6年度の取組成果について	1
2 令和6年度三重県病院事業決算の概要について	6

令和7年6月20日

病院事業庁

【所管事項説明】

1 三重県病院事業 中期経営計画 令和6年度の取組成果について

≪ 病院別の取組成果 ≫

こころの医療センター

中期経営計画における令和6年度の目標と実績

目 標 項 目	R5 実績	R6 目標	R6 実績	R7 目標
(1) 精神科救急・急性期医療の提供				
精神科救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	488	460	497	470
(2) 専門的医療の提供				
認知症入院患者数 (人/日)	32.5	40.0	29.3	40.0
アルコール依存症入院患者数 (人/日)	21.7	30.0	18.2	30.0
YMSC新規相談件数 (件)	223	200	209	200
災害訓練実施回数 (回)	1	1	1	1
(3) 地域生活を支えるための支援				
デイケア・ショートケア延べ患者数 (人)	9,483	12,500	9,558	12,500
訪問看護延べ患者数 (人)	3,803	5,000	3,901	5,000
在院3か月以内退院率 (%)	79.4	77.6	81.6	77.6
障害福祉サービス事業所等との連携 取組件数 (件)	9	9	9	9
こころしっとこセミナー開催件数 (件)	35	35	32	35
家族等にむけた研修会の開催件数 (件)	24	24	26	24
(4) 人材育成の充実				
研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	2,168	1,900	1,663	1,900
人材育成研修回数 (回)	5	6	6	6
(5) 業務改善の推進				
危機管理研修等参加率 (%)	99.7	100.0	100.0	100.0
患者満足度 (%)	86.0	95.0	87.5	95.0
(6) 医師・看護師の確保				
医師充足率 (%)	79.2	100.0	83.1	100.0
看護師充足率 (%)	98.9	100.0	100.0	100.0
(7) 経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組				
経常収支比率 (%)	97.1	94.1	83.4	97.4
医業収支比率 (%)	57.5	63.5	52.7	65.3
1日平均入院患者数 (人/日)	203.7	230.0	193.7	237.0
1日平均外来患者数 (人/日)	180.8	200.0	178.2	200.0

令和6年度の取組成果

- 「三重県精神科救急医療システム」の支援病院として、休日・時間外等の救急患者や病病・病診連携による緊急的な紹介患者の受入れ等を行いました(497件)。うち、保健所からの要請による措置診察(80件)にも対応しています。

- 認知症治療の充実を図るため、脳神経内科専門医とともに多職種が連携し、もの忘れ専門外来（週3日）や専門病棟を中心に治療（入院29.3人/日）を提供しました。
- アルコール依存症治療においては、専門性の高いプログラムを用いた入院治療等（入院18.2人/日、外来延べ2,602人）を提供しました。また、ギャンブル依存症治療においては、全6回（月1回）からなる回復プログラム（集団プログラム）を運用しています。
- 院内に設置しているユース・メンタルサポートセンターMIE（YMSC-MIE）において、若年層やその家族等からの相談（新規209件）に対応するとともに、学生、教員、保護者や関係機関を対象に研修会（12回）を実施しました。
- 令和6年2月に運用を開始したAYA世代（思春期・若年層）病棟において入院を受け入れ、多職種協働で早期治療・退院支援に取り組みました。
- 患者の地域における生活を支援するため、外来患者に対するデイケア・ショートケアサービス（延べ9,558人）や在宅療養支援のための訪問看護サービス（延べ3,901人）を提供しました。
- 精神科専門医研修プログラムにおいて専攻医3名を受け入れるとともに、継続的な大学医局への働きかけなどにより、医師の増員に取り組みました。
- 災害拠点精神科病院として、災害時の精神科医療を提供する上で中心的な役割を担うため、国や県が行う研修や訓練に参加（2回）するとともに、大規模地震発生に備え、BCP（事業継続計画）に基づく訓練を実施（1回）しました。
- 決算においては、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）の患者を受け入れるための病床確保に係る国からの交付金（医業外収益）の皆減や新型コロナの影響等により減少した患者数の回復が十分でないこと、人件費の上昇・物価の高騰等により、経常損益は2年連続の赤字となりました。（経常損益：R5 △94百万円→R6 △571百万円（△477百万円））

残された課題、今後の取組方向

- 精神科救急・急性期医療では、今後も救急患者の受入れや措置診察の要請等に的確に対応します。
- 認知症治療については、専門外来と専門病棟による切れ目のない効果的な治療を引き続き提供するとともに、関係機関と連携しながら認知症治療が必要な患者を積極的に受け入れるなど、患者数の増加に向けて取り組みます。
- アルコールおよびギャンブルに係る依存症治療については、それぞれの治療拠点機関として、専門プログラムに基づいた治療や研修・普及啓発に取り組みます。
- デイケアサービスにおいて、引き続き、利用者の日常生活や就労面への支援を行います。
- YMSC-MIEにおいて、若年層やその家族等からの精神病様症状や不登校・登校しぶり、ひきこもりなどの相談に対応し、必要に応じて外来診療につなげるとともに、AYA世代病棟と連携し、多職種協働による早期治療・早期退院支援を行います。
- 専門医研修プログラムにより精神科専門医の取得を希望する専攻医を積極的に受け入れて人材育成に取り組むとともに、将来的な医師の確保につなげます。
- 災害時の精神科医療を提供する上で中心的な役割を担えるよう、BCPに基づく訓練の実施や継続的な見直しを行うなど災害への備えを進めます。
- 前年度と比べ減少した医業収益の回復に向け、病床管理の徹底や医療・福祉関係機関との連携の強化等により患者数の確保を図るなど、経営改善に取り組みます。

中期経営計画における令和6年度の目標と実績

目 標 項 目	R5 実績	R6 目標	R6 実績	R7 目標
(1) 地域医療の推進				
訪問診療、訪問看護等延べ患者数 (人)	4,147	4,700	3,692	4,700
住民健診、人間ドック、がん検診、 特定保健指導受診者数 (人)	973	1,200	946	1,200
救急患者受入件数 (件)	680	750	549	750
医療過疎地域等への支援件数 (件)	3	5	3	5
多職種連携による取組件数 (件)	18	15	18	15
(2) 人材育成の充実				
研修医・医学生受入延べ人数 (人)	427	500	598	500
看護実習生等受入延べ人数 (人)	336	350	256	350
プライマリ・ケア研修会開催件数 (件)	3	3	3	3
(3) 地域医療に係る研究活動の推進				
学会、論文等発表件数 (件)	13	20	21	20
(4) 業務改善の推進				
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
患者満足度 (%)	97.7	96.6	98.5	96.6
(5) 医師・看護師の確保				
医師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組				
経常収支比率 (%)	108.4	100.3	105.2	102.8
医業収支比率 (%)	65.1	63.3	66.4	66.3
1日平均入院患者数 (人/日)	33.4	36.0	32.4	37.0
1日平均外来患者数 (人/日)	55.0	61.0	51.9	65.7

令和6年度の取組成果

- 地域の幅広い医療ニーズに対応できるプライマリ・ケアを実践するとともに、通院が困難な患者に対する訪問診療（延べ557人）や訪問看護（延べ2,741人）、訪問リハビリテーション（延べ379人）等の在宅療養支援、住民健診（435人）や人間ドック（136人）、がん検診（369人）等の予防医療に取り組みました。
- 初期救急医療を担う医療機関として24時間365日の救急受入体制のもと、救急ホットライン（消防から医師への直通電話）や外来ホットライン（診療所等から日当直看護師への直通電話）も活用しながら、救急患者（549件）を受け入れました。
- 令和5年10月から運用している地域包括ケア病床を積極的に活用し、退院後の生活を見据えたりハビリテーションなど、在宅復帰支援に取り組みました。
- 令和6年1月から再開している整形外科外来を活用し、地域ニーズに合わせた医療サービスを提供しました。

- 地域における保健・医療・福祉の連携会議や健康啓発事業等の様々な活動を通じて多職種連携の強化を図り、地域包括ケアシステムの構築を支援しました。
- 院内に設置した認知症看護認定看護師による「もの忘れ相談室」において、入院・外来患者からの認知症に係る相談（36件）に対応しました。
- 院内に開所（令和4年10月）した病児・病後児保育室「みどり」において、適切に病児・病後児保育（延べ107人）を実施しました。
- 総合診療医の育成拠点として、研修医（延べ58人）、医学生（延べ518人）等を受け入れ、一志病院の診療圏をフィールドにした実践的な研修を提供しました。
- プライマリ・ケアエキスパートナースに係る研修会の開催（3回）等を支援し、新たに4名（全員一志病院）を認証しました。
- 継続的な大学医局への働きかけなどによる医師の増員に取り組みました。
- 決算においては、入院・外来の患者数が減少したものの、地域包括ケア病床の活用等による診療単価の増により入院収益が増加し、経常損益は12年連続の黒字となりました。（経常損益：R5 +85百万円→R6 +54百万円（△30百万円））

残された課題、今後の取組方向

- 引き続き、プライマリ・ケアの実践、訪問診療等の在宅療養支援、住民健診等の予防医療の提供に取り組みます。
- 消防機関や診療所等と密接に連携しながら、24時間365日の救急患者受入体制を維持し、地域の救急医療体制の確保に貢献します。
- 県内における総合診療医育成の中心的な役割を担うとともに、多職種連携の要となるプライマリ・ケア人材の育成に取り組みます。
- 「もの忘れ相談室」で対応した患者を、必要に応じて津市の認知症支援チームにつなぐなど、白山・美杉地域における地域包括ケアシステムの構築に向け連携して取り組みます。
- 地域の診療所・福祉施設との連携強化や予防医療を含めた良質な医療サービスの提供を通じて入院・外来患者数を確保するとともに、在宅療養支援など地域の医療ニーズに対応しながら、今後も健全な経営を続けます。

志摩病院

中期経営計画における令和6年度の目標と実績

目 標 項 目	R5 実績	R6 目標	R6 実績	R7 目標
(1) 地域医療の推進				
1日平均入院患者数 (人/日)	169.2	180.0	172.4	208.0
1日平均外来患者数 (人/日)	247.6	262.0	243.5	309.0
1か月平均救急患者数 (人/月)	358.2	362.0	332.2	503.0
間崎島への巡回診療実施回数 (件)	24	24	24	24
災害訓練実施回数 (件)	2	2	2	2
多職種研修会等実施回数 (回)	12	12	12	12
(2) 人材育成の充実				
初期研修医の受入数 (人)	7	6	6	6
実習生の受入数 (人)	408	440	361	440
(3) 業務改善の推進				
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
患者満足度 (%)	97.2	95.0	96.5	95.0

令和6年度の実績

- 指定管理者による運営のもと、入院診療については、一般病棟・地域包括ケア病棟・精神科病棟を運用して多様な医療ニーズに対応し、前年度を超える患者数を受け入れました。一方、外来診療については、地域の人口減少の影響等もあり、患者数は前年度を下回りました。
- 救急医療については、内科系患者の24時間365日の受入れを継続していますが、患者数は前年度を下回りました。

残された課題、今後の取組方向

- 引き続き、志摩地域の中核病院としての役割・機能を担っていけるよう、指定管理者と密接に連携し、地域の医療ニーズをふまえながら診療機能の維持・充実に取り組みます。

県立病院課

中期経営計画における令和6年度の目標と実績

目 標 項 目	R5 実績	R6 目標	R6 実績	R7 目標
(1) 経常収支等の向上に向けた支援				
経常収支比率 (%)	99.8	95.7	88.8	98.7
医業収支比率 (%)	57.9	62.1	54.5	64.1
(2) 医師・看護師の確保				
医師充足率 (%)	87.4	100.0	87.9	100.0
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
(3) 患者満足度の向上				
患者満足度 (%)	92.7	95.0	93.5	95.0

※ (1) については、こころの医療センター、一志病院、県立病院課を合計した値

※ (2) については、こころの医療センター、一志病院を合計した値

※ (3) については、こころの医療センター、一志病院、志摩病院を合計した値

2 令和6年度三重県病院事業決算の概要について

(1) - 1 収益的収支

(単位：百万円、%)

	R5年度	R6年度	R6-R5	対前年度 増減率
① 病院事業収益 (A+B+C)	8,203	5,331	△2,872	△35.0
医業収益 A	2,418	2,432	13	+0.5
うち入院収益	1,841	1,859	18	+1.0
うち外来収益	432	425	△7	△1.6
医業外収益 B	2,847	2,899	52	+1.8
うち一般会計繰入金	2,334	2,385	51	+2.2
(うちコロナ交付金)	246	—	△246	皆減
特別利益 C	2,938	—	△2,938	皆減
② 病院事業費用 (D+E+F)	5,314	5,854	541	+10.2
医業費用 D	5,096	5,654	559	+11.0
うち給与費	2,726	2,997	271	+9.9
うち材料費	252	251	△0	△0.1
うち経費	1,506	1,829	323	+21.5
うち減価償却費	592	551	△41	△7.0
医業外費用 E	218	200	△18	△8.3
特別損失 F	—	—	—	—

③ 経常損益 (A+B) - (D+E)	△48	△523	△475	—
④ 純損益 ((1)-(2))	2,890	△523	△3,413	—

(1) - 2 経常損益の病院別内訳

(単位：百万円)

	R5年度	R6年度	R6-R5
こころの医療センター	△94	△571	△477
一志病院	85	54	△30
志摩病院	△38	△7	31
合計	△48	△523	△475

※志摩病院は指定管理者制度を導入しているため、県会計上は入院・外来収益や給与費、材料費等の経費を含んでおらず、主に減価償却費等の固定資産にかかる損益を示したものとなります。

(1) - 3 患者数の状況

(単位：人/日)

	入院（1日平均）			外来（1日平均）		
	R5年度	R6年度	R6-R5	R5年度	R6年度	R6-R5
こころの医療センター	203.7	193.7	△10.0	180.8	178.2	△2.6
一志病院	33.4	32.4	△1.0	55.0	51.9	△3.1

(参考)

志摩病院	169.2	172.4	3.2	247.6	243.5	△4.1
------	-------	-------	-----	-------	-------	------

(2) 資本的収支

(単位：百万円、%)

	R5年度	R6年度	R6-R5	対前年度 増減率
① 資本的収入	801	827	26	+3.3
企業債	370	393	24	+6.4
県費負担金	404	424	20	+5.0
短期貸付金返還金	—	—	—	—
国庫補助金	—	9	9	皆増
その他	28	1	△27	△95.7
② 資本的支出	1,174	1,234	60	+5.1
建設改良費	376	407	31	+8.3
企業債償還金	708	737	30	+4.2
長期借入金償還金	90	90	—	—
長期貸付金	1	—	△1	皆減
短期貸付金	—	—	—	—
資本的収支差引(①-②)	△373	△407	△34	—

※各表について、四捨五入処理のため合計や差引が合わない場合があります。